

▶平成27年度第1回セミナー◀ 埼玉県立文書館で2月20日(土)開催

開催日：平成28年2月20日(土)

会場：埼玉県立文書館

(さいたま市浦和区高砂4-3-18)

講師：今村遼平氏「中国の地図測量史」(午前)

講師：増山聖子氏「館蔵地図の紹介(仮称)」(午後)

参加費：500円(資料代)

時間：9:15開場

9:30~12:00 午前セミナー開講

12:00~13:00 休憩

13:00~15:00 午後セミナー/地図展「地図のひみつ ひみつの地図」見学

参加ご希望の方は当財団まで(2月12日まで)ご連絡下さい。参加証をお送りします。当日直接参加も可能です。今回は会員以外の方も参加できます。

★詳細は当財団ホームページ(HP)をご覧ください。

巡検・セミナー開催のご案内

平成28年度第1回巡検は「秩父」を予定しています。

開催日：平成28年4月9日(土)

集合：西武秩父駅前 午前10時集合

(西武池袋駅8時30分発「ちちぶ7号」を推奨)

ルート等については現在検討中ですが、参加ご希望の方に時刻表、集合場所、ルート等を郵送します。

締切：4月1日(電話、Eメール、ホームページでご連絡下さい)

★詳細は当財団ホームページ(HP)をご覧ください。

展覧会情報

地図の「明治維新」-残された明治初期の町村地図-

期間 12月19日~2月28日

会場 長野県立歴史館(千曲市)

電話 026-274-2000

城下町萩のひみつ~迷宮へのいざない~

期間 12月12日~4月7日

会場 萩博物館(萩市)

電話 0838-25-6447

ようこそ日本へ：1920-30年代のツーリズムとデザイン

期間 1月9日~2月28日

会場 東京国立近代美術館(東京都千代田区)

電話 03-5777-8600

mini地図NEWS

外国人旅行者にもわかりやすい地図記号

2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催や外国人旅行者の急増によって、わかりやすい地図の作成を国土地理院が計画し、「外国人にわかりやすい地図表現検討」報告書を2016年1月、公表しました。意見募集を経て、国土地理院が英語版地図を作成する際の基本として適用される予定です。

在日大使館職員や留学生、外国人旅行者ら約1,000人の意見を聞き、18施設について外国人向けの新たな記号を策定しました。18施設には寺、神社などの伝統的建造物のほか、レストランや銀行(ATM)、コンビニエンスストアなどの旅行者にとって必要な記号も含まれます。日本人になじみのある寺や郵便局、ホテル、交番などの記号は分かりにくい、もしくは誤解されるといった理由で変更が検討されています。鉄道、空港などピクトグラム化された記号もあります。また、策定された地図記号以外にもWi-Fiスポット、タクシー乗り場、薬局などや、「ハラル対応の食事」記号の要望もありました。

報告書では地名・施設名の英語表記ルールについても検討されています。

検討された地図記号の例



寺(卍)



神社(変更なし)



郵便局(〒)



ホテル(Ⓜ)



コンビニエンスストア(新設)



Wi-Fiスポット(検討)

地図の迷道

GIS “超” 私見

○ “システム” の教育って？

今号「地図情報」136号の特集は「地理総合」とは何かです。次期学習指導要領に向けた改訂の中で高校の「地理総合(仮称)」では、防災教育やESD(持続可能な開発のための教育)、グローバル化などとともにGIS教育がうたわれています。ただ“GIS”は“地理情報システム(Geographic Information System)”の略語なので、“システムの教育”とはなんぞやという疑問が出てきます。例えば計算力が重要だからといって、計算力向上の教育とはいっても、計算力向上システムの教育とはいわないですね。

つまり、GIS教育とは“誰でもGISソフトウェアを使いこなすようになりましょうね教育”に感じてしまいます。

以下、表紙解説の番外編程度としてお読み下さい。

○ GISを使うにはコツがある

最初に「QGIS」(フリーソフトGIS)を使って日本地図データを表示すると、曲がった日本地図が出てきます(図1)。直そうと思っても図法選択メニューが見つからない。探し出しても図法が多すぎてたどり着けない。ようやくたどり着いたら図中心の経線をコントロールできない。プリントしたくてもファイルメニューにプリント項目がない。プリントコンポーザーを開くと、真っ白な画面が出てきて地図が表示されない…と試行錯誤が限りなく繰り返されます。それよりも、表示する地図データはどこから入手するのか悩みました。



図1 国土地理院「地球地図日本」を表示したQGISの初期画面

考えるとGISソフトはかなり癖のあるソフトではないかと思います。地理データを扱うので、測地系や経緯度などを理解すれば便利に使えますし、白地図を作るにも図法や縮尺は必要でしょう。GISのデータ形式もshape (Esri)、kml (Google)などのベクトルデータや、GeoTIFF、IMGなどのラスターデータなどどれを使えばいいのか初心者は迷います。

図1のshapeデータは国土地理院のサイト「地球地図」を使いましたが、市区町村単位の各種地図データは「国土数値情報 ダウンロードサービス」(<http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/index.html>)からもダウンロードすることができます。「地理総合」開始までにGIS教育関連のクリアリングハウス(通信ネットワークを活用した地理的情報の流通機構)をどこか作ってくれればありがたいですね。

○ 統計データやソフトはどうする

データについては政府統計の総合窓口「地図で見る統計(統計GIS)」(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/toukeiChiri.do?method=init>)では統計データを地図で見ることができたり、テキストデータで統計情報をダウンロードすることができます。総務省統計局では統計データをエクセルで配布しており、国勢調査を中心に多くのデータが揃っています。GISファイルのオープンデータを提供している地方自治体も増えてきており、例えば室蘭市では都市計画現況図や避難場所、津波浸水深さなどの防災shapeファイルが入手できます(図2)。データはこれからも増えていくでしょう。

GISソフト自体もWebから入手できます。個人や学校ではフリーウェアの「MANDARA」や「カシミール」がよく使われているようです。特にMANDARAはエクセルデータを様々な表示することができるので、グラフィカルな統計・分析ができます。

白地図を塗るといった“GI”(地理情報)作業は地理教育にとって大切な作業です。その後にフリーウェアやオープンデータでGI“S”を体験してはいかがでしょうか。

井口悦男先生の「地図絡み」は先生おかげのためお休みです。次号をお楽しみに。

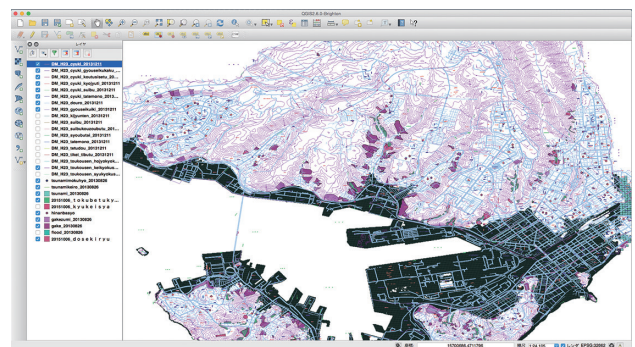


図2 室蘭市の「むろらんオープンデータライブラリ」をGISソフトで表示したもの。黒い部分は津波浸水深さ予測の一部。